

昭和の大合体 総称して「391ビル」

「フジサワ名店ビルとダイヤモンドビルと藤沢プライムビル」



藤沢駅南口の象徴的なビル。1965(昭和40)年フジサワ名店ビルが建設。翌年ダイヤモンドビルが、その5年後の1971(昭和46)年にCDビル(現在のザ・プライム)が完成。この3つのビルがくっついて(各ビルの床を接続させ一体化)現在も超レトロ昭和なビルとして藤沢で愛されている。中がどうなっているのか? 藤沢の人でもよく分からない人は多い、謎だらけの駅前ビルである。

むかし、なつかし♪ビアガーデン 「29-Garden(ニーキューガーデン)」



夏の屋上の風物詩ビアガーデン。期間限定で、名店ビルの屋上にビアガーデンがオープンし昭和の香りがプンプン。地元のラジオ局とコラボしてのステージや、ディスコパーティーなど、湘南で昔遊んでいたやつらが集まって楽しむ。地産地消にこだわったパーベキューはうまい!

20世紀少年の世界へようこそ

純喫茶ジュリアン

藤沢駅北口から徒歩2~3分の純喫茶。とにかく昭和40年代生まれの男たちには懐かしくて仕方のない昭和の世界がある。マーじゃんゲームのテーブルが今も残り、緑と赤のペアーソーダも珍しい。店の前の通路は映画『20世紀少年』の撮影場所になった。



〈DATA〉
2色のソーダが一つのグラスで楽しめる「ペアーソーダ」
藤沢市藤沢110

奥田センター飲食街

高度成長期、東京オリンピック、大阪万博とバリバリ・イケイケだった時代からずっと愛され続けてきた一角。天ぷらの「藤よし」、割烹の「わだ津」、老舗の中華料理店「つるや」…。どの店舗にも遠方から訪れるファンをうならせる味が生き続けている。



ゴリラせんせい(半田 拓也さん)の全力紙芝居

藤沢で子どもにも大人にも大人気のゴリラ先生。保育士として働きながら、現代風のイラストや芸を交えながらオリジナルの紙芝居を披露してくれる。辻堂出身、独特の風貌で子ども向けイベント中心に活躍中。古くて新しい紙芝居のコミュニケーションが藤沢で愛されている。

〈DATA〉
https://gorillasensei.themedia.jp



藤沢で昭和を探してみた

藤沢には、愛すべき昭和が感じています。街中や歴史、人や文化。紹介しきれないので今回はその中から5つだけご紹介いたします。

藤沢オヤジのさんぽ

歴女必見! 遊行寺の裏に広がるストーリー

一遍上人を宗祖とする時宗の総本山遊行寺。その裏手には藤沢の偉人たちの墓があり、秘話がたくさん埋もれています。今回は少しだけご紹介! 昭和初期に生きた豪快な藤沢人「高瀬弥一」氏の墓を訪ねました。

鶴沼に在住し横浜で会社を起業し事業を行った。コスモス夫人とちまたで呼ばれた美女と結婚し離婚。豪邸に住み、狩猟を楽しみ、芥川龍之介など文豪とも夜な夜な語り合っていた。非常に豪快な人物で、地位や名誉よりプロジェクトを成功させることに力を入れる人物で、鶴沼御殿といわれた2万坪の土地を銀座の豪商に売却し、何もなかった鶴沼地域に私道を通し、バスを走らせ、江の島に水道を通した。海水浴場観光地としての藤沢に大きく貢献したとされるが、金もうけはいま一歩。最後は財を失い、借家でアルコール依存症で亡くなりました。藤沢には「〇〇通り」という人の名前の通りがいくつもあり、その中の一つに高瀬通りがあります。その人生は実はまだ分かっていないことも多いのです。ぜひ、世の中にまだ知られていない物語を探しに藤沢へ。



参考・高瀬笑子著「鶴沼断想・私家版」、「藤沢市史」より

藤沢生まれ
藤沢育ち

藤沢ネイティブ
小林 剛輔さん

藤沢の物語や不思議、面白さを大学でも講演。「湘南というくりでなく、「藤沢」の面白さをぜひ知ってほしいですね」

日本最大級のブルーベリー観光農園 藤沢ブルーベリーファーム

貴 重なる完熟ブルーベリーを思う存分味わえる。ブルーベリーのおいしさはもちろん、土汚れの心配がない清潔な園内設備やスタッフの皆さんの丁寧な対応も評判だ。いろいろな品種を食べ比べできるのも魅力。都心からのアクセスも良く、小さな子ども連れからシニアの方まで気軽に楽しめる。6月から8月がシーズン。



〈DATA〉
https://solar-sharing.org/blueberry

真面目に誠実に、土と向き合う まめっば農園

代 表の富岡 義さんは大学を卒業し、青果業界で下積みをした後、2019年4月に就農した20代の若手生産者。新規就農としてはかなり広い約7千坪の畑で契約者向けの加工用野菜などを生産している。就農したばかりなのに同年7月、11月の月間売上が100万円を突破するという偉業を達成。



まめっば農園代表 富岡 義さん

昔から生産者になるのが夢でした。今は毎日が充実しています!

〈DATA〉
090-4246-1445

果実を栽培して約70年! 3世代で作る果物の楽園、Aoki果樹園



「学 生の頃は、農家の仕事が嫌いだった」と話す3代目 青木拓磨さん。家を継ぐことは考えず、大手食品メーカーで技術営業職として約7年間働く。会社業務に本気で取り組むほどに、祖父の「農家は研究から販売まで全て自分でやるのだ!」という言葉に惹かれ始める。県内でも大きな農地を守り続けている家族の偉大さと、それを守り、多くの方々に本当においしい果実を味わってほしいという思いから、アラサーで就農を決意。

ブドウ、梨を主体に、柿、柑橘類、イチジクなどさまざまくだものを生産直売。Aoki果樹園でしか食べられないオリジナル品種も。最近ではイチジクの人気も急上昇! 中でもバナーネという品種はねっとりとした甘い食感が特徴的。



イチジクは洋菓子店「ラッシュ」や「湘南」にも販売し、おいしいケーキになっている



青木 拓磨さん

初めての方にも楽しんでいただけるような直売所を目指しております。カラフルなくだものたちを見に来るだけでも構いません。ぜひお気軽に直売所にお寄りください。

〈DATA〉
https://aokikajuen.com

今、藤沢は 農業 が面白い

先の先を行くのが藤沢の農業

藤沢は昔から都内近郊の立地と豊かな自然や気候を生かし農業が盛んです。冬春トマト(生産量県1位)が国の指定産地として名産品となり、キャベツや芋類、果樹など種類も豊富。そんな中、つつい思いが熱くなり過ぎる藤沢から発信したい新しい農業界をお伝えします。

すごい女性農家がいる体験農園 コトモファーム

農 場で野菜作りを教えてくれる女性農家の小島希世子さんがとにかく面白い。慶應義塾大学卒業後、農作物卸業、有機農業関連の会社勤務経験後、現職。横浜ビジネスグラ



自分だけの7坪(約22平方メートル)相当の広い体験エリアでも農業を体験できます

ンプリ ソーシャル部門最優秀賞受賞、内閣府地域社会雇用創造事業(横浜地区)最優秀賞受賞、農林水産大臣奨励賞(第31回人間力大賞)

受賞。農業・化学肥料を一切使わず、年間30種類の野菜作りを教えている。農業界で注目を浴びつつ、日々藤沢で野菜を作っている。著書『農で輝く! ホームレスや引きこもりが人生を取り戻す奇跡の農園』(河出書房新社)。

〈DATA〉
http://www.eto-na-en.com/cotomo-farm/

県内唯一 移動販売車で直売もする生産者 笑顔が一番 イイジマポーク



イイジマポークの皆さん。移動販売車の前で

「甘 くて柔らかい。ここのお肉を食べたら他のところでは買えない。」とファンが絶えないイイジマポーク。1920(大正9)年から100年続く藤沢市宮原の養豚農家。神奈川県が開発した系統豚 W種カナガワヨーク×L種ユメカナエル、社長の飯島さんが四十数年かけて自ら改良したデュロック 八重桜号といった純粋な品種を生産することにこだわって一頭一頭大切に、おいしい豚肉を作っている。農林水産大臣賞を受賞した豚肉は、さがみ農協の直売所の他に移動販売車でも精肉・加工品として販売。直接届く声に「お客さまが味の審査員です」と熱く語る飯島さん。

〈DATA〉
有限会社 飯島産業 046-253-0298 (豚肉加工・直売所)